

むくどく 無功德

総務省への入省を志したきっかけを教えてください。

学生時代は、人の役に立ちたいと考えていました。偶然に、東北管区行政監察局から声をかけて頂きました。政府における総合調整機能の活性化等のため新設された総務庁の出先機関なので、ここなら頑張れると思いました。

現在の携わっている業務について教えてください。

審議官として行政評価局を担当しています。行政評価局は、「政策評価の推進」、「行政評価局調査」、それと「行政相談」に関する業務を実施しています。いわば政府のレビュー機能を担っています。

行政管理・評価分野での総務省の役割を教えてください。

行政管理・評価分野では、例えば、行政評価局調査は、担当府省では把握しにくいような実情、また取り組みにくいような課題も実証的に把握、分析し、府省の垣根を越えて、国民の立場から課題解決に取り組むことができる強みがあります。総務省は、このような行政管理・評価分野でのいろいろな強みを生

かして、国民の立場から国の行政のあるべき姿を追求し、行政運営の改善を図り、国民に信頼される、効率的で質の高い行政の実現に貢献しています。



行政管理・評価分野でのやりがいと、それを感じた具体的な業務のエピソードについて教えてください。

やりがいは沢山あります。その一つに人の役に立っていることが実感できることです。今でも特に印象に残っているのは、行政に関する苦情などを幅広く受け付け、関係機関に改善のあっせんを行う「行政相談」です。

採用されて間もないころ、受話器を取った瞬間、「これからどうやって生活すればいいのよ！」女性の怒鳴り声。失業手当が受給できず、小さな子供と明日から生活できない、世の中は非情だ・・・と。先日の先輩のアドバイス「どんなことがあっても、しっかり話を聴くこと」が頭をよぎりました。雰囲気は和らぐまで、ただただ話を聴き、それから事情を聴きました。その後、関係法令を調べ、職業安定所に受給資格の再確認を依頼しました。すると、「受給できます」との回答。女性は、とても喜んでいました。私も、喜びがこみ上げました。もっともって人の役に立つために頑張ろうと思ったことを、今も鮮明に覚えています。

受験者へのメッセージをお願いします。

少子化・高齢化など直面する様々な行政課題は、複雑化・高度化しています。また、新型コロナウイルス感染症拡大で発現した課題に対し、従来の社会環境を前提に構築されてきた制度では、迅速かつ的確に対応できなかったことが浮き彫りになりました。このため、府省の垣根を超えて連携し、従来の制度そのものを問い直し、持続可能な制度を構築していく必要があります。政府におけるレビュー機能はますます重要となっています。私は、何事においても、やるべきことを自ら考え、一步一步前進し、努力を積み重ねることが大切だと考えています。



大臣官房審議官
(行政評価局担当)

佐々木 淳

Sasaki Jun

入省後の略歴と職務内容

